

今月の星空



川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum

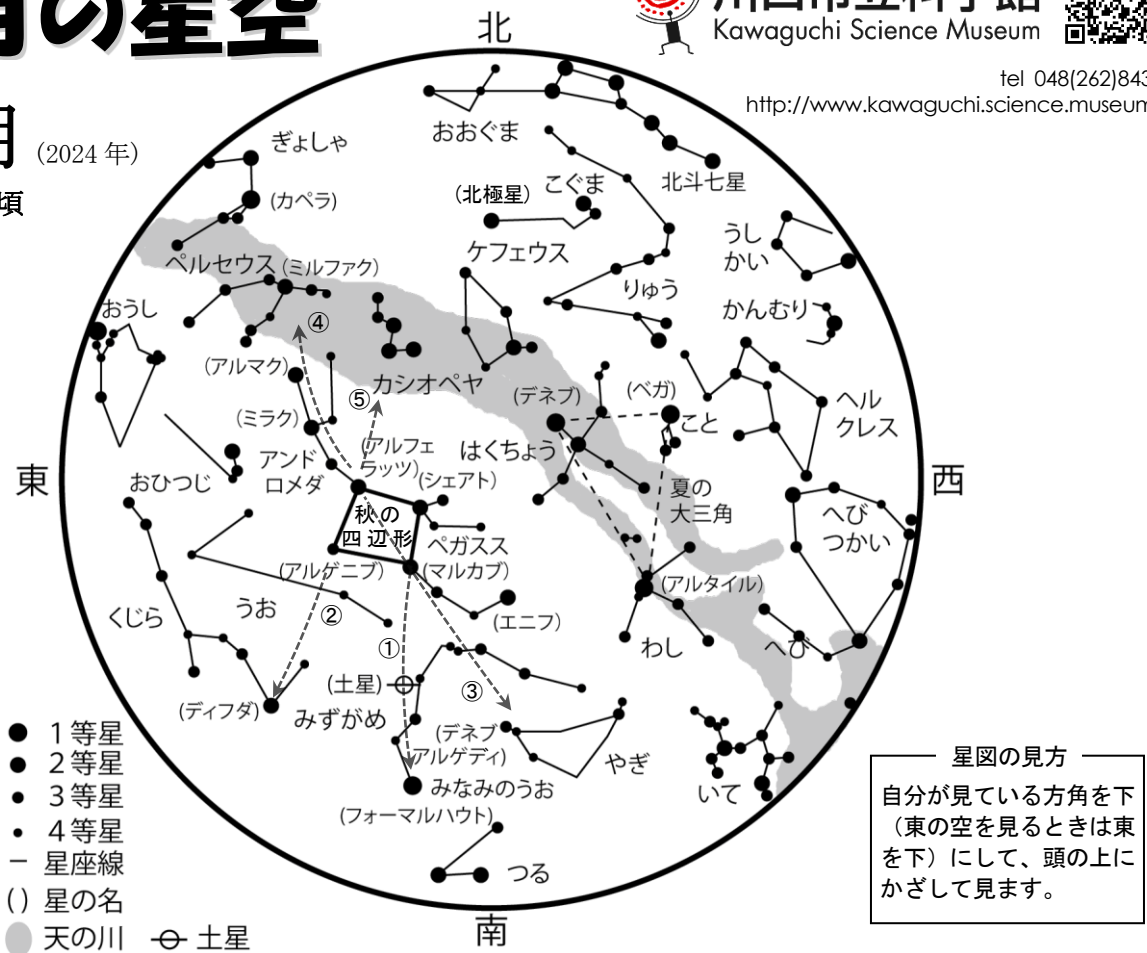


tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

10月 (2024年)

中旬 20 時頃



月 齢 ● 新月 3日、● 上弦 11日、○ 満月 17日、● 下弦 24日

惑星情報 金星 日の入後 南西(てんびん→さそり→へびつかい座 -4等)
火星 真夜中 東(ふたご→かに座 1→0等) 木星 真夜中 東(おうし座 -3等)
土星 夜のはじめ頃 南東→南(みずがめ座 1等)

★秋の星空めぐりのおすすめモデルコース

10月に入ると川口市では17時半前には太陽が沈むようになり(下旬になれば16時台)、夜の訪れが早くなります。まずは、夕方、南西～西の低空で-4等で輝く金星を見つけましょう。19時前に沈む金星を見送った後は、西の空にある「夏の大三角」に立ち寄り、南の空へ。0.7等で輝く土星を目じるしに、目的地の「秋の四辺形」を見つけましょう。ここからは星図を参考に、秋の四辺形の各辺や対角線を延ばして…①みなみのうお座、②くじら座、③やぎ座、④アンドロメダ座→ペルセウス座、⑤カシオペヤ座など、各方面への散策もおすすめです。また、17日は今年最も大きく見える満月*です。その二日前の15日は旧暦9月13日にあたり、「十三夜(後の月)」と呼ばれる、中秋の名月に次ぐ、お月見の日とされています。秋のお月見とともに、澄んだ秋の夜空を見上げてみませんか。

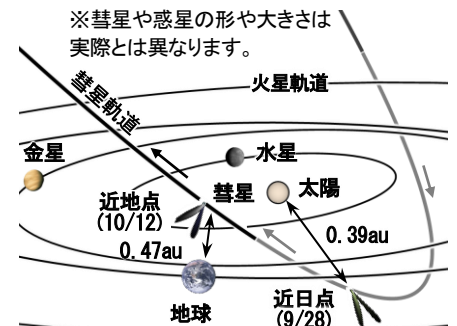
*スーパームーンとも呼ばれる。今年最小であった2月24日の満月に比べると視直径は14%大きい。

★今年注目の紫金山(ツーチンシャン)・アトラス彗星(C/2023 A3)

この彗星は2023年1月に、地球からの距離7au*¹以上という遠方で発見され、その後の軌道計算から、太陽にかなり近づく軌道を持つことなどから、肉眼でも見える「大彗星」になるのではないかと期待されています。右図のとおり、9月28日に太陽に最も近づき(近日点通過)、10月12日には地球に最も近づき(近地点通過)、この頃が、彗星の尾が長く伸び、明るく見える時期となります。10月初旬は明け方の東の低空に、10月中旬以降は夕方の西の空に位置するようになります*²。9月時点での明るさの予測は、当初のものよりも下方修正されていますが、実際にどこまで明るくなるか、その動向に目が離せません。

*1…au(天文単位)…地球-太陽間の距離を1とする単位。1auは約1億5千万km。

*2…位置情報は国立天文台暦計算室「今日のほしぞら」<https://eco.mtk.nao.ac.jp/cgi-bin/koyomi/>等をご覧ください。



ステラナビゲータ11を基に作成

図 10月12日の紫金山・アトラス彗星と太陽・地球の位置関係